

政治・宗教思想研究会／関西神学塾

連続講座の案内

ハンス・キュンクの生涯 5

「キリスト者であること」

講 師：ふくしま よう 福嶋 揚 さん

日 時：2026年 9 月 18 日(金) 午後 6 時～8 時

場 所：西宮公会教会 集会室

〒662-0834 西宮市南昭和町10-22

0798-67-4691

阪急西宮北口駅より 徒歩3分

参加費：500円



ローマ教皇が「不可謬性を持つ」とする不可謬性の教義に、真っ向から立ち向かったハンス・キュンクの「闘い」について、引き続き話していただくことになります。それは同時に、キュンクの「我信じず」の表明でもあり、そのまま、私たちへの問いにもなります。(ハンス・キュンクについては、『福音と世界 2026 年 9 月号』で、『異端者の世界航海 ―ハンス・キュンクの生涯 18 教皇の不可謬性を問う』(新教出版社) 参考。



福嶋 揚

1968 年 生 ま れ。東京大学大学院人文社会系研究科(倫理学専攻)博士課程修了。テュービンゲン大学福音主義神学部を経て、ハイデルベルク大学神学部にて神学博士号(Dr.Theol.)取得。現在、東京大学教員。著書は『カール・バルト―破局のなかの希望』(ぶねうま舎)、『カール・バルト―未来学としての神学』(日本キリスト教団出版局)など。訳書はユルゲン・モルトマン『希望の倫理』など。



今回は、カトリック神学者ハンス・キュンクが、カトリックの壁をはるかに超える大作『キリスト者であること』(1974)によって世界的な反響をまきおこしたこと、それとともにキュンクに対するローマ教皇庁からの異端審問がいよいよ苛烈をきわめてゆくありさまを迫ります。なおこの『キリスト者であること』のダイジェスト版が『イエス』(福嶋揚訳)です。

(福嶋 揚)

主催：関西神学塾
協力：障害児・者情報センター
問合せ：西宮公会教会
西宮市南昭和町 10-22
TEL：0798-67-4691
MAIL：koudou@gamma.ocn.ne.jp